

「令和4年青森県鉱工業生産指数年報」の概要

1. 概況

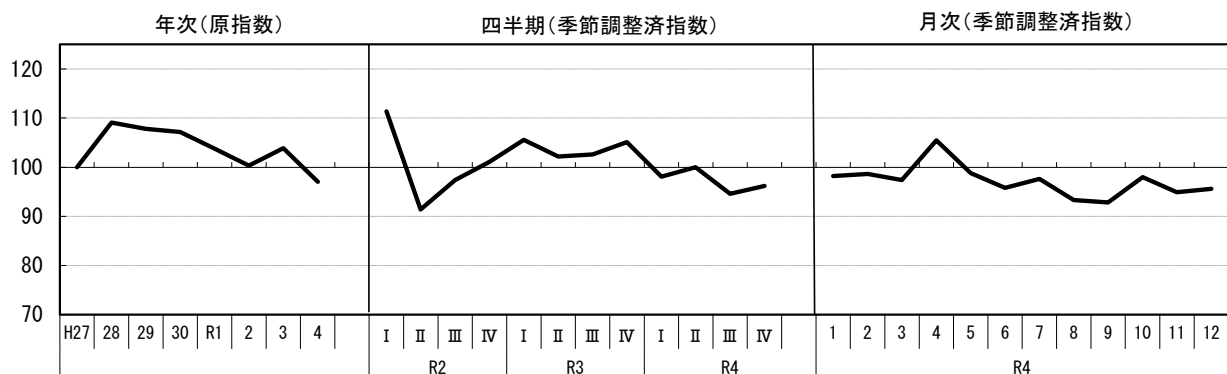
令和4年の青森県鉱工業生産指数は 97.0(原指数:平成27年=100)で、前年比 6.6%の低下となり、2年ぶりに前年を下回りました。

四半期別(季節調整済指数)に前期比でみると、第Ⅰ四半期は 6.7%の低下、第Ⅱ四半期は 1.9%の上昇、第Ⅲ四半期は 5.4%の低下、第Ⅳ四半期は 1.7%の上昇となりました。

(第1図)

第1図 青森県鉱工業生産指数の推移

(平成27年=100)

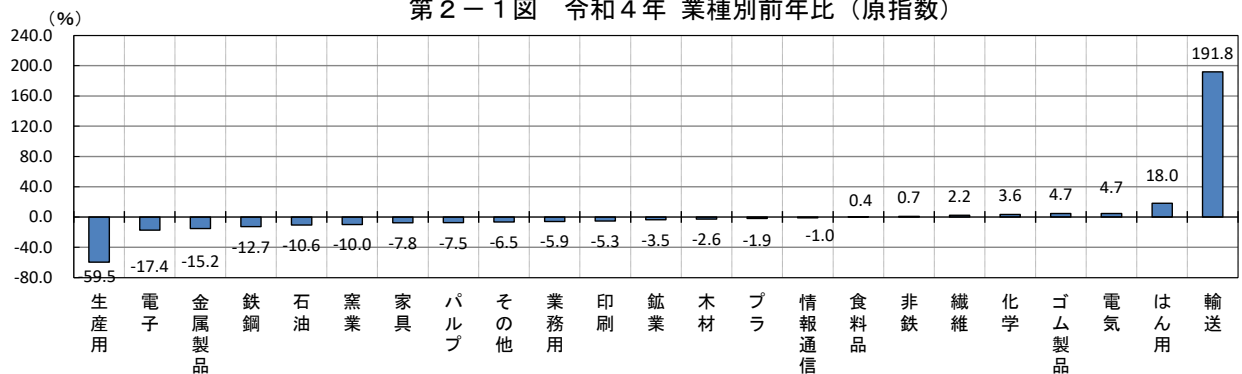


2. 業種別の動向

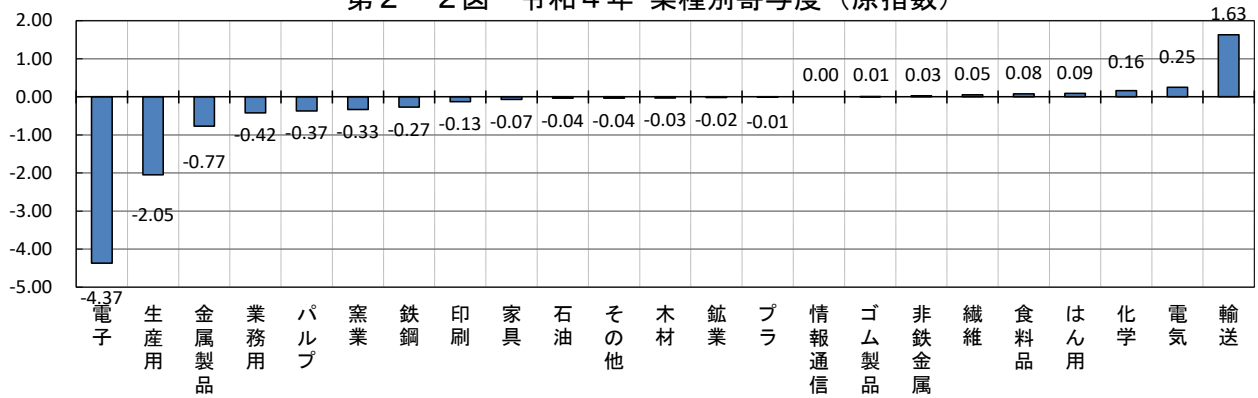
業種別にみると、23業種中上昇したのは、輸送機械工業(前年比 +191.8%)、はん用機械工業(同 +18.0%)、電気機械工業(同 +4.7%)など8業種で、低下したのは、生産用機械工業(同 -59.5%)、電子部品・デバイス工業(同 -17.4%)、金属製品工業(同 -15.2%)、など 15業種でした。 ※皮革製品工業は対象事業所がないので業種から除いた。

変動に寄与した主な業種をみると、輸送機械工業、電気機械工業、化学工業等が上昇に寄与した一方、電子部品・デバイス工業、生産用機械工業、金属製品工業等が低下に寄与しました。(第2-1図、2-2図、第1表)

第2-1図 令和4年 業種別前年比(原指数)



第2-2図 令和4年 業種別寄与度（原指数）



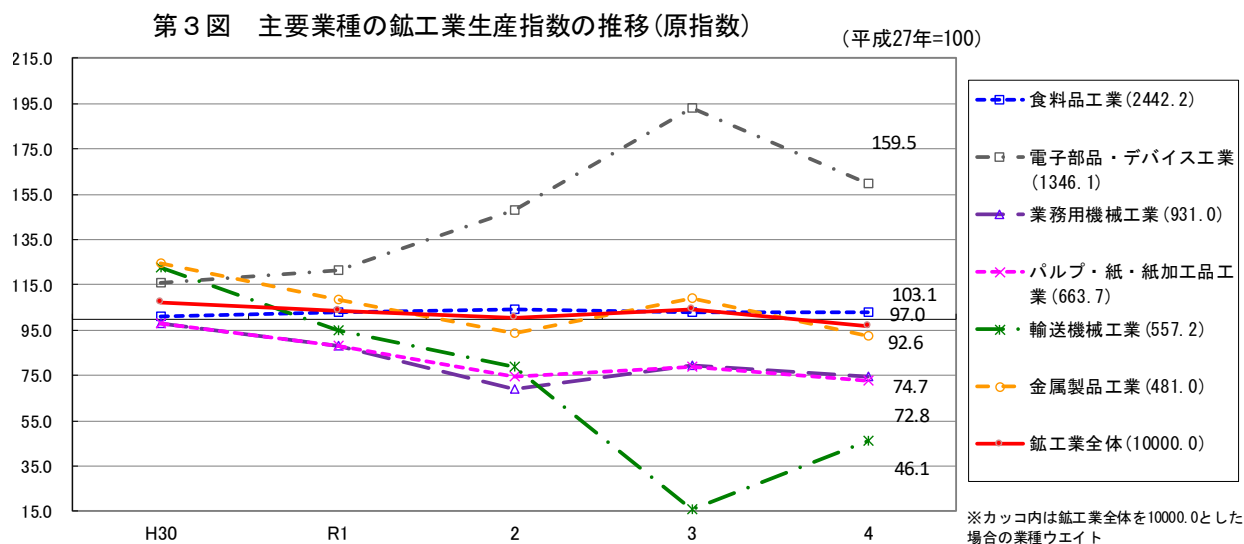
第1表 令和4年青森県鉱工業生産指数 前年比、寄与度等（原指数）（平成27年＝100）

	令和4年	令和4年 対前年比 （％）	令和4年 寄与度	主な変動寄与品目	
				上昇	低下
鉱工業	97.0	-6.6	—	—	—
製造工業	97.1	-6.6	—	—	—
鉄鋼業	70.0	-12.7	-0.27	鉄鉄鑄物	フェロアロイ 等
非鉄金属工業	116.0	0.7	0.03	亜鉛 等	銅被覆線
金属製品工業	92.6	-15.2	-0.77	作業工具、鉄塔 等	鉄骨、粉末や金製品 等
はん用機械工業	89.3	18.0	0.09	除雪機、精密板金 等	工業用炉・同部分品
生産用機械工業	52.7	-59.5	-2.05	プラスチック用金型 等	真空装置・真空機器 等
業務用機械工業	74.7	-5.9	-0.42	カメラ用交換レンズ 等	事務機械器具部分品 等
電気機械工業	125.6	4.7	0.25	電気測定器 等	配電盤、分電盤 等
情報通信機械工業	93.4	-1.0	0.00	有線通信機械器具 等	表示装置部分品・取付具
電子部品・デバイス工業	159.5	-17.4	-4.37	コンデンサ、超小型電動機 等	コネクタ、センサ関連部品 等
輸送機械工業	46.1	191.8	1.63	銅船 等	
窯業・土石製品工業	75.1	-10.0	-0.33	台所・食卓用ガラス製品 等	生コンクリート 等
化学工業	109.4	3.6	0.16	医薬品原薬 等	化成肥料 等
石油・石炭製品工業	70.3	-10.6	-0.04		舗装材料
プラスチック製品工業	71.8	-1.9	-0.01	プラスチックフィルム・シート 等	プラスチック発泡製品 等
パルプ・紙・紙加工品工業	72.8	-7.5	-0.37	パルプモールド	塗工紙 等
繊維工業	56.8	2.2	0.05	織物製外衣 等	ニット製靴下 等
食料品工業	103.1	0.4	0.08	ジュース・その他の清涼飲料 等	水産缶詰 等
その他工業	87.6	-4.9	-0.25	—	—
ゴム製品工業	101.7	4.7	0.01	工業用ゴム製品（輸送機械用）	工業用ゴム製品（ゴム製パッキン） 等
皮革製品工業	—	—	—	—	—
家具工業	107.0	-7.8	-0.07	金属製家具 等	建具 等
印刷業	87.4	-5.3	-0.13		凸版・平板印刷物
木材・木製品工業	79.9	-2.6	-0.03	住宅建築用木製組立材料	木材チップ 等
その他製品工業	76.1	-6.5	-0.04	生原皮 等	木製パレット 等
鉱業	84.9	-3.5	-0.02		石灰石

※ 業種別寄与度の計は小数点以下の取扱いにより対前年比とは一致しない。

※ 皮革製品工業は対象事業所がないため、分類名のみ計上している。

本県における主要 6 業種の動向をみると、輸送機械工業、食料品工業の 2 業種が上昇し、電子部品・デバイス工業、金属製品工業、パルプ・紙・紙加工品工業、業務用機械工業の 4 業種が低下しました。（第 3 図）



「令和4年青森県鉱工業生産指数年報」は、令和4年1月から 12 月分として公表した「青森県鉱工業生産指数(速報)」を、年間補正後の確定値により取りまとめたものです。

指数の作成に当たっては、平成 27 年を基準年(平成 27 年=100)とし、県内で生産される 141 品目を採用しています。

【用語の説明】

(1) 原指数

指数作成用データをそのまま指数化したもので、原指数により動向をみる場合には前年同月比が主に使用されます。

(2) 季節調整及び季節調整済指数

季節調整とは、景気変動(生産の変動)をみるため、1年間の周期をもつ規則的な要素(四季の変化からなる自然要因、盆・正月などの社会的慣習、決算期などの商慣行の社会要因等)を調整することです。鉱工業生産指数の場合は、季節指数を算出し、それで原指数を除することにより季節調整を行います。季節調整を行った指数を「季節調整済指数」といい、季節調整を行うことによって前月との比較や景気変動を把握することができます。

(3) 寄与度

鉱工業全体の上昇または低下に対して、各業種がどれだけ影響を与えたものか示す値です。

(4) ウェイト

ウェイトは、個々の品目の鉱工業全体に占める重要度のことで、鉱工業全体を 10,000.0 とした構成比で示しています。ウェイトは付加価値額ウェイトで、工業統計調査等を基礎に算出しています。

(5) 前年比

前年と当年を比較して求められる比率で、変化率で示しています。前年同期比、前月比、前年同月比も同様に算出します。

$$\text{前年比} = (\text{当年指数} - \text{前年指数}) / \text{前年指数} \times 100$$